

「美濃国之図」

縦 85.0cm 横 118.2cm

江戸時代の美濃国を描いたものです。

当時、国内にあった21の郡が5色に塗り分けられ、絵画的な雰囲気を持っています。各郡には村名が記入され、さらに郡内の村の数や石高もあります。

町や村の中には「:」「・」「」の記号が付されているものがあり、それぞれに「御料之分」「御料ト他料ト分郷」「高須御料」とあります。「:」の付いた村々の領主が尾張藩であることから「御料」が尾張藩の領地であることがわかります。

この絵図は特集展示「古地図（平成19年2月8日（木）～3月11日（日））」に展示します。

企画展

ちょっと昔の道具たち

2007. 1. 12(金)~ 3. 11(日)

昨年度までの取り組み

今年度で11回目を迎える展覧会。本展は小学生が社会科で初めて歴史的 content にふれることから、具体物を通し、五感を使って楽しく学習できるように展示を工夫してきました。そのため、岐阜市小学校社会科研究会の先生方のご協力により、展示内容や学校見学の利便性等について毎年協議するとともに、来館者アンケートの実施とそれに基づく検討を繰り返しています。展示コーナーは児童の生活との関わりを考え、「学校」「まちかど」「家のなか」「家のまわり(遊びのコーナー)」の4コーナーを設置し、「学校」「家のなか」が「おじいさん、おばあさんが子どものころ(90~60年くらい前)」、「まちかど」「家のまわり」を「おとうさん、おかあさんが子どものころ(50~30年くらい前)」を中心とした時代設定で展示し、これとは別に130~90年くらい前の道具のコーナーを設置し、道具の移り変わりがわかりやすいように配慮しています。また、ボランティア「ものしり博士」が解説や体験活動の補助をおこない、さらには、会場を世代を超えた交流の場としてきました。

平成17年度は会期中15,600人余りの来館者の方を迎え、学校団体は86団体を数えました。学年別では4年生が中心であり、3年生がそれに続きます。また、1年生限定の「たぬきの糸車 SPECIAL DAYS」を4日間設定し、美濃コッ



「学校」コーナー 教室の様子(90~60年くらい前)
平日は学校団体による昔の授業体験がおこなわれ、土日は各種イベント会場となります。

ンポール銀行の皆さんとものしり博士による、綿繰り体験・たぬきの糸車紙芝居・わくわくはらっぱでの昔の遊びなどのメニューを組み合わせたスペシャルプログラムを開催し、13団体(30学級)の参加がありました。

このような学校教育との連携、体験型展示、世代間の交流はご来館の皆様にご好評をいただいております。本年度もこの基本コンセプトのもとに、実施することにいたします。



たぬきの糸車 SPECIAL DAYS(糸車の体験)
見学メニューのなかのひとつ。一人一人が糸車を使って、綿から糸を引いてみます。

本年度の取り組み

「昔のくらしと道具の知恵」の提案

さて、学校団体見学の場合、1校あたり1時間30分から2時間程度の見学を予定する学校が大半です。この時間内において、オリエンテーションによる見学の動機付けと諸注意、クラス毎に「学校」コーナーでものしり博士による昔の授業体験、「まちかど」コーナーにおける紙芝居見学を、各20分程度実施し、残り時間でグループによる自由見学とするのが、標準的な見学メニューです。当館では、この見学を通じて児童が「何か」を学び、それを学校へ持ち帰ることを目指しています。その内容は各校の学習カリキュラムにおける見学の位置づけによるのが第一義であり、学校団体見学の受付時には、見学目的や希望などをお聞きし、可能な限り対応するようにいたします。

また、当館としては、今年度「昔のくらしの道具と知恵」にスポットをあてます。体験学習による「楽しかった」「道具の使い方がわかった」、あるいは「昔の生活は今と比べて大変だった」との理解を一步進め、その時代に生きた人々の知恵が伝えられるように、展示解説やものしり博士によるトークを工夫します。



「家のなか」コーナー 井戸(90~60年くらい前)
今年度、リニューアル予定のコーナー。ポンプの筒先に、砂をろ過する布袋がついています。

展示品の更新

本年度は、「家のなか」コーナーの井戸の手押しポンプについて、水を出ることが出来なかったものを、実際に水が出るように更新します。これにより、水を入れた重さに調整した水桶を運ぶ体験、洗濯板と盥を使った洗濯体験との関連付けをはかるとともに、車井戸の滑車とツルべを展示することで、車井戸~手押しポンプ~現在の水道への変化を例示し、体系的に「水」に関する先人の知恵と努力を紹介できるようにします。また、「まちかど」だがしやさんのコーナーで好評のくじ引き体験(小・中学生対象)の景品に、オリジナル「お買物あそび」を追加します。展示品をもとに、昭和30~40年代の電化製品と貨幣のイラストを印刷したもので、切り抜いて遊ぶものです。

その他、昨年新設した「喫茶まちかど」に音楽関係者サイン色紙を追加展示するなど、本年も展示品見直しを実施しています。

【関連行事】

<一般来館者向け>

塚原おじさんの曲ゴマ

1月14日(日) 11:00, 13:00, 15:00

おもちゃづくり教室(各日11:00~14:00~)

「布でつくる富有柿 [300円] 1月21日(日)・「鬼のからくり人形 [400円] 2月4日(日)・「からくりブンブンごま [300円] 2月11日(日)・「ガリガリトンボ [100円] 2月18日(日)・「うぐいす笛 [100円] 2月25日(日)・「とんだりはねたり [400円] 3月4日(日)

[]内は材料費、定員各回先着20名、開始30分前より整理券を配布します。

ものしり博士のわくわくワークショップ
(各日10:00~12:00, 13:00~15:00)



「まちかど」コーナー 電気屋さん(50~30年くらい前)
電気洗濯機についている、ローラー絞機で洗濯物を脱水中。「家のなか」コーナーの井戸の脇にある、洗濯板、洗濯盥と比較体験ができます。

1月20日・27日、2月3日・10日・17日・24日、3月3日・10日の各土曜日

みんなで唄おう!「和みの唄会 こどもの日」大集合!!
(各日15:00~)

1月20日・27日、2月3日・10日・17日、3月3日・10日の各土曜日

みんなあつまれ!紙ヒコウキ大会

1月28日(日) 13:30~

みんなあつまれ!おはじき大会

2月12日(月休) 13:30~

みんなあつまれ!ペーゴマ大会

3月11日(日) 13:30~

<学校団体向け>

学校利用説明会(小学校教諭対象)

1月10日(水) 15:00~

たぬきの糸車 SPECIAL DAYS

3月1日(木)・2日(金)・8日(木)・9日(金)

小学校1年生対象。先着36学級。

都合により内容・時間等が変更になる場合があります。学校団体見学の申し込みは、随時受け付けております。ご希望の見学日時が満員となる場合もありますので、お早めに博物館までご相談ください。



「家のなか」コーナー 居間の様子(90~60年くらい前)
ものしり博士に教えてもらいながら、鯉節削りに挑戦。

加藤栄三・東一記念美術館

加藤栄三・東一と ゆかりの画家たち

2007.2.14(水)～4.22(日)

1931年(昭和6年)東京美術学校(現東京芸大)日本画科を卒業した加藤栄三は、同級生の東山魁夷とともに、在学中の教授であった結城素明に師事し薫陶を受けました。

また、弟の東一は、1947年(昭和22年)東京美術学校卒業と同時に、高山達雄・浦田正夫らの若手日本画家で結成されていた日本画研究団体「一采社」に参加するとともに山口蓬春に師事し日本画を研鑽しました。

このように日本画壇では、尊敬する師のもとに入門し、日本画の技法とともに画家としての心構えなどを学ぶ画塾制度が今も続いています。画塾制度の功罪はいろいろ言われますが、人間関係が淡泊になり心の交流が失われつつある現在、若い画家が美を追求し自分を高めていく制度として機能していると思います。

東一は、師：山口蓬春のことを次のように語っています。

「蓬春先生は、絵に関してはもちろん勉強家でいろいろなことをご存知でしたが、十人いれば十人それぞれに教えるというか、ひとつの型にはめないで個性を尊重なさった。それが一番尊敬する点です。“金魚のウンコみたいに私のあとをついてくるだけでは駄目だよ。君たちは各々、みんな大なり小なりの素質があるんだから、それを十分のばすようにしなさい。そのための手助けな



「長良川」長縄士郎

ら私はしてあげます」と。ですから蓬春門下には、先生流の絵を描く者はほとんどいませんよ。それはいい先生についたと思います。だから、私も先生の薫陶を継承して、うちの者たちに接しています。相談を受けたときには“多分、君はこっちへ行った方がいいんじゃないか”とは言えるけれど、“こうしなさい、あっちにしなさい”とは言わないことにしています。」

栄三・東一の門下から多くの優れた日本画家が輩出しているのも、このような自主性を重んじた指導による結果なのでしょう。



「虹」山田申吾

本展では、栄三の同級生で美保子夫人の兄でもある山田申吾の作品「虹」、東一の美校時代の教授であった川崎小虎の作品「わらび」、東一の師：山口蓬春の作品「アネモネ」とともに門下生の作品を展示します。

岐南町出身で、鎌倉から岐阜市琴塚に居を移した長縄士郎の作品「長良川」、養老町出身の土屋禮一が日春展で日春賞を受賞した「女」の他に石川響・岸野圭作・東俊行・笠井利之・太田稲吉・片桐乙日子・宮川博など門下生の作品を展示します。特に石川響の作品「デカン高原の日の出」は、栄三に同行しインド・ネパールを旅したときの素描で、新しく寄贈をうけ初公開するものです。

東俊行の作品「早春奔流」は、流れの激しい渓流を描いた迫力ある屏風です。これも新しく寄贈をうけ「ショールの女」とともに初公開します。また、土屋禮一が東一の死に際し師の顔を描いた「デス・マスク」(素描)も初公開です。尊敬する師の死に接し、どのような思いで描いたのか、複雑な心の葛藤を読み取っていただければと思います。

博物館ニュース

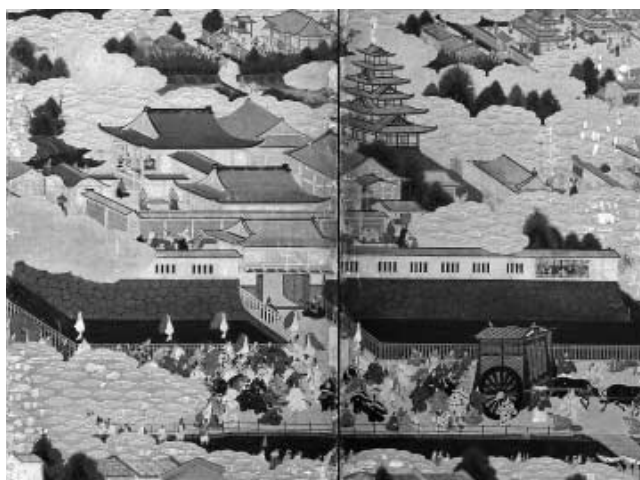
らくちゅうらくがいず

洛中洛外図が寄贈されました

今年7月、伊藤久子さんから、京都の景観を描いた名所図の一種である洛中洛外図を当館にご寄贈賜りました。縦155センチ、横353センチの大画面が6枚折りの屏風に仕立てられ、それが左右一対からなる六曲一双の大作です。たくさんの寺社をはじめ内裏や二条城などの建物のほか、祇園祭りの山鉾、町屋のようす、そこに暮らす人たちが町を訪れる物売り・芸能者たちなどの風俗が、金箔や金泥をふんだんに使った豪華な画面に生き生きと描かれています。

洛中洛外図は室町時代から江戸時代にかけて制作され、これまでに屏風や扇面など約100件が知られてきました。このたびご寄贈いただいた作品に描かれる景観は寛永年間（1624～44）の初めころのもので、屏風そのものの制作も江戸時代初期と推定されます。対となる一双の画面は、おおむね堀川通りを境にして分けられ、左隻（向かって左の屏風）には堀川通りの西側、右隻には東側の景色を描いています。その中でひときわ目立つのが左隻に描かれた、二条城の前に行く長い行列です（右の写真）。おそらく本作品全体のテーマと考えられるもので、牛車には葵紋が確認できます。他の洛中洛外図にも、元和6年（1620）の徳川秀忠の娘・和子の入内、寛永3年（1626）の徳川秀忠の参内などの行列が描かれます。しかし、本作品の行列が、いつの、どのような性格のものであるかはまだ明らかではありません。

すでに9月に特集展示コーナーで公開しましたが、今後も展示や調査研究に活用していく予定です。



特集展示（2階 総合展示室内）

2階の総合展示室の一角に特集展示コーナーを設置し、1～2ヵ月ごとにテーマを設けて資料を公開しています。12月後半から3月の日程は下記の通りです。

12月14日（木）～2月4日（日）	岐阜市の古墳
2月8日（木）～3月11日（日）	古地図
3月15日（木）から	刀剣の美

柳津歴史民俗資料室の展示

分室・柳津歴史民俗資料室（岐阜市柳津町下佐波西1-15 もえぎの里2階）では、次の日程で展示を行います。観覧は無料です。

12月24日（日）まで	2万年前のぎふの暮らし
（12月25日～1月3日は展示替え及び年末年始のため休室）	
1月4日（木）～2月12日（月休）	もういくつねるとお正月
2月14日（水）～3月11日（日）	きょうは楽しいひな祭り
3月13日（火）から	思い出の小学校

4枚の線路平面図(下)

～幻の中濃軽便鉄道～

大塚 清史

この出願に対し、鉄道院は命令書に官設線完成後の路線移転や一部廃止、線路の改築、国の買収を可能にする条文を特に付し、建設費も買収を見越して金山～太田～吉田間のみ別途会計させることで免許を出し、工事施行認可申請期限は明治46年3月24日までとした。

前島等はこれを受けて株式募集にとりかかったが難航し、大正2年(1913)3月と9月の2回、期限延期許可を受けた。この間4名の発起人を追加するとともに、大正3年3月7日には事業計画見直しを申請し、路線を下麻生(川辺町上川辺)～太田～鵜沼間と坂祝～吉田間に短縮、変更した。そのため蒸気動力をいかにした貨物輸送の見込みが減少し、「乗客二満足ヲ能フル」ために電気動力を採用、社名も「中濃電気鉄道」に改め、当鉄道成立のあかつきには、前島のかかわる中濃電気株式会社と合併の方針であった。さらに軌間を3フィート6インチ(1067mm)に改めることとした。これは岐阜までの敷設を断念したため、関から美濃電へ、あるいは犬山から鵜沼方面への延伸をうかがう名電との乗り入れを視野に入れ、軌間を共通にしたのである。この結果資本金は一気に50万円まで減資することができた。

この大幅な変更により、当初の飛騨～岐阜間貨客輸送の幹線的な路線としての位置付けは、私鉄線間の連絡を見据えた、地方都市間の旅客輸送線へと変質したのである。

さて、大正3年3月18日、2度目の延長期限を24日に控え、前島等は3度目の延長願を提出した。文面には株式全部確定、線路実測完了、用地買収予約が終わり、来る20日に株主総会を開催する運びであることを記していた。書類は19日付けで知事の副申を得て県から東京へ送られ、鉄道院は総会当日の20日に受領した。会社が成立すれば施行認可申請が可能であるため、鉄道院では成り行きから「既二会社成立済二候也」と考え、27日に「至急何分之申出有之度」と、直接前島に照会している。しかし、予想に

反して株主総会では、建設の一時中止が決議されていた。前島はなお挽回の余地があることを強く上申したらしく、結局、鉄道院では3度目の期限延期を、2ヶ月後の5月24日迄認めた。しかし、その期限内にも会社設立は叶わず、前島は期限の一日前、23日になって免許状等返納の願いを提出した。その文中には株主総会にて「一時中止」を可決と記したが、結局「廃止」と訂正した上で受理されたのである。ここに、今一步及ばなかった前島の無念さを感じることができよう。

さて、当鉄道は、当初から官設予定線と重なり、美濃町線を擁する美濃電と岐阜～関間で競合、さらに名電の構想とも競合していた。つまり、交通の要路を押さえた路線計画だったのである。しかし最終的に株式引受けは全部確定したものの、不況で株金払込みが滞り、世情不安がそれに追い打ちをかけた。加えて魅力的な路線にもかかわらず、美濃電、名電等による支援や権利譲渡の動きも管見の範囲では見受けられなかった。これは前述の免許条件により、官設線完成後、経営の目途がたたないことがネックになっていたと思われる。

これらの経緯と、大正3年3月申請の起業変更目論見書添付の予測線路平面図(以下変更目論見書と記す)に記された明治45年免許の「現在免許線」と変更後の「予測線」をもとに、木訥庵本の線路平面図を改めて検討すると、ルートや停車場位置、名称が一部異なっていることがわかる(図3)。

第1には、岐阜～金山間と関方面への分岐で、現在免許線は太田、予測線は坂祝であるのに対し、木訥庵本は酒倉である。この太田から坂祝への変更は、太田から関に向かう際、一旦岐阜方面へ戻る形となる無駄を省くことが狙いで、約1マイルの節約ができるとされた。木訥庵本の酒倉分岐は、その中間的な案のようである。

第2に、鵜沼～勝山間のルート設定で、現在免許線と予測線が共に宝積寺山を木曾川沿いに迂回するのに対し、木訥庵本は隧道を掘って短絡している(図4)。経費節減のための短絡であろうが、軌間を美濃電、名電の規格に合わせたことと同じく、両社との乗り入れを考慮しておく必要もあった。そのため、一旦短絡を計画し

たが、再び犬山からの延伸が予測される名電と連絡しやすい宝積山迂回ルートに落ち着いた可能性がある。同様の例は吉田駐車場の位置にもみられる。こちらは現在免許線、木訥庵本は吉田村下横町としているが、当時は市街地の東端で、その先美濃電へと連絡するには市街地を横断する必要があった。予測線は高畑停車場から市平停留所を迂回することで、安桜山の山際の中町北に停車場を置き、山裾を通ることで美濃電との接続を容易にしている。

さらに木訥庵本の特徴として、新加納、酒倉両停車場に変電所を赤字で追記している点がある。この電化計画は、大正2年9月22日に提出した陳情書に明記されている。また、美濃加茂市森山町の予定停車場名を「森山」としているが、変更目論見書の予測線、現在免許線では、ともに「上古井」である。一方、陳情書は「森山」の名を使用している。

これらの事項を勘案すると、木訥庵本は、変更目論見書の現在免許線と予測線の中間に位置するもので、陳情書作成段階の検討図面だった可能性が高い。陳情書には線路実測完了とし、なお「動力及び軌間変更二伴フ諸設計変更、製図其他ノ準備」が必要と記しているが、その実測図面が本図ではなかろうか。さらに、陳情書に明記された起点と終点が鷺沼～太田～森山間と坂祝～吉田間であることも考え合わせると、作図は大正2年の早い時期であったと思われる。

そして本図が大野家に伝来した点から、前島は何らかの技術的、財政的支援を、鉄道経営実績のある大野鋈二に求めたのかもしれない。



図4 鷺沼～勝山間(木訥庵本)

木訥庵の4枚の線路平面図。そこからは、鉄道に賭ける前島の思いが、時を経て今なお感じられるのではなかろうか。(終)

(参考文献)「岐阜日日新聞」・「美濃電気軌道敷設転末」(岐阜県図書館蔵)・内閣鉄道院監理部監督局「中濃電気鉄道株式会社」簿(運輸省公文書内・国立公文書館蔵)・『名古屋鉄道社史』・『濃飛人物と其事業』・『川辺町史』・『加納町史』・『岐阜駅70年史』

なお、本稿執筆にあたり名鉄資料館服部重敬氏、松永直幸氏に御教示を賜りました。記してお礼申し上げます。

(備考) 明治45年免許段階の停車場位置は、変更目論見書添付線路平面図に未記入であるが、同じく添付された「現在免許線分線路予測縦断面図」(3枚)に記載があるので参考までに列記する。

安良田・領下・切通・蔵前・那加・三柿野・二十軒・巾・鷺沼・栗栖・勝山・太田・下古井・上古井・川辺・下麻生・中麻生・上麻生・勝(以下欠)

太田・加茂野・肥田瀬・吉田

勝停車場(現 加茂郡七宗町)があることから、下麻生～金山間ルートは飛騨川沿いをとったことが分かる。

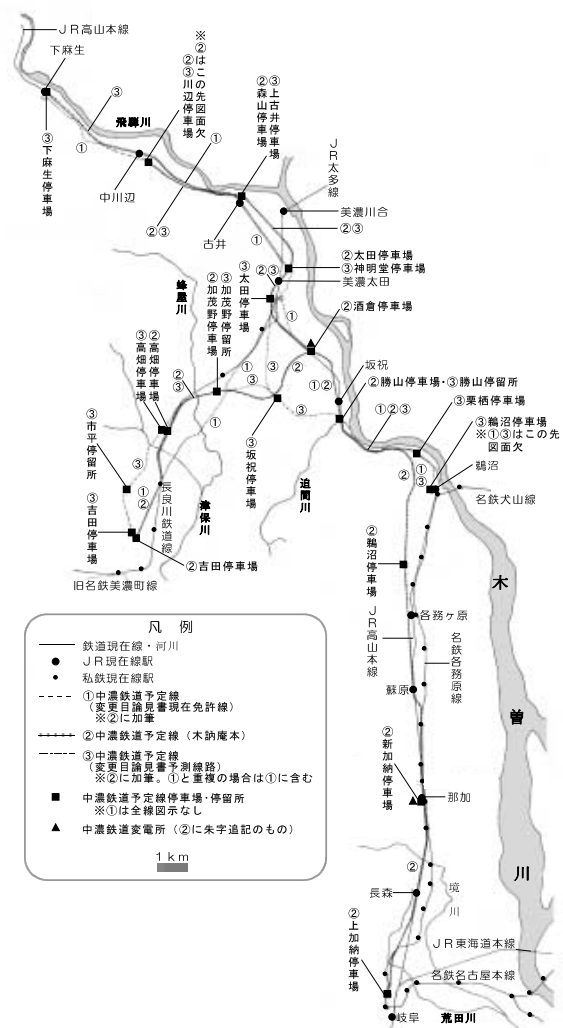


図3 中濃軽便(中濃電気)鉄道予定路線図

学芸員の海外ボランティア活動

平成17年10月から1年間、当館学芸員1名が、JICA（国際協力機構）の事業の一環として、中東のシリアで博物館運営方法の改善を目的としたボランティア活動を行いました。

四大文明として有名なエジプトやメソポタミアの陰に隠れているのか、その隣にあるシリアの歴史は、一般にはあまり知られていないようです。しかし「文明の十字路」といわれるこの地域には、数多くの先史時代以来の集落や都市国家の興亡の跡があります。

テル（遺丘）と呼ばれる、フライパンを伏せたような形をした遺跡もその一つです。古代の人びとが新しく住居や神殿を建てる際に、それ以前の崩れ落ちた建物の基礎の上に整地をしたので、何百年、何千年もの間にこのような形に積みあがっていったのです。このため、テルを調査すれば、その地域の歴史の流れを明らかにすることができます。

これら遺跡の出土品は、首都ダマスカスや、第二の都市アレッポなどにある国立博物館に収蔵されています。東西文化の交流を示す貴重な文化財も数多く展示されていますが、もともとのこの国の歴史の歩みが非常に複雑なものだったという背景がある上に、テルの出土品は長期間、複数の時代にわたっているので、見学する人にとって、その時代背景が分かりにくい展示になりがちです。今回の活動では、解説板を増設し、展示物やケースを再配置する計画案を作り、シリア政府に提案しました。それぞれの展示品がもっている歴史的な意味をよく理解できるようにするためです。



テル・マルディク遺跡の遺丘

利用の御案内

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
休館日 毎週月曜日と祝日の翌日
(月曜日が休日の場合は翌日)
年末年始(12月28日～1月3日)
観覧料
特別展 そのつど定めた金額
企画展 常設展料金で御覧いただけます
歴史博物館常設展、加藤栄三・東一記念美術館
高校生以上 300円(団体240円)
小・中学生 150円(団体90円)
市内の小・中学生は無料
両館共通で観覧される場合
高校生以上 500円(団体400円)
小・中学生 250円(団体150円)
団体は20名以上

交通案内 JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園・歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。
公園内ロープウェイ乗場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。

博物館だより 64 2006.12
編集・発行 岐阜市歴史博物館
〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1 ☎058(265)0010
(分館)加藤栄三・東一記念美術館
〒500-8003 岐阜市大宮町1-46 ☎058(264)6410